

児童の表現力・発信力を培うコミュニケーションツールの活用～電子メール、Web上での発信、ポートフォリオの実践を通して～

熊本県人吉市東間小学校
やま もと とも ひろ

山本朋弘

【実践の内容】

本研究では、児童の表現力・発信力を培うために、電子メール・Web上での発信、ポートフォリオの実践を通して、コミュニケーションツールを活用した教育実践を進めた。

その結果、相手を意識した表現について考えるようになり、工夫しながら意欲的に情報発信することができた。また、主体的なコミュニケーションに高めることができ、一人一人の学びの過程から個性・思考・成長が見えてくるようになった。

【論文内容の紹介】

1 はじめに

小学校においては、友達や地域の人々とのコミュニケーションを通して、さまざまな情報を集め、わかりやすく表現したり、情報を発信したりする活動は、「情報教育」の基本であり、多くの教科に共通して必要な力だといえる。「総合的な学習の時間」を進める上でも、地域の人や専門家などとの関わりが深くなり、さまざまなコミュニケーションを通して、豊かに表現し、情報を自ら発信する力を育成していく必要がある。

2 研究の視点

- すべての児童が活用できる環境を整備し、学年に応じた適切な活用場面を設定する。
- 子どもたちの発想を生かしたコミュニケーション方法を支援する。
- 目的や相手を意識した情報発信になるように支援し、発信内容を高めるようにする。

3 実践内容

(1) コミュニケーションスキルの育成

メールアカウントの発行やスキルハンドブックを活用したことで、一人一人の情報スキルを高めることにつながった。

(2) 市内学校間でのコミュニケーション

市内の小学校間で練習段階を設定し、交流学习を行い、ネットワーク上のモラルやマナーを育成することができた。また、新しい出会いが生まれ、人と人とのつながりを味わうことができた。

(3) メールボランティアとの連携

地域のメールボランティアとの交流を通して、「地域を知り、地域から学ぶ」学習を進め、地域連携の学習へと高まった。

(4) 児童による「メールマガジン」の発行

児童自ら継続的に取り組み、主体的なコミュニケーションに高めることができた。児童の自主的活動から、学校と地域の連携を生み出すようになった。

(5) Webページへの外部評価を生かす

閲覧者からのアドバイスを生かし、相手を意識したWebページ制作について考えるようになった。みんなにわかりやすく伝えようという思いで、意欲的に情報発信することができた。

(6) ポートフォリオを使った表現活動

「学習の足跡」を表現する活動を通して、情報の再構成を自ら進んで取り組むようになった。保護者にもアピールしたことで、親子のコミュニケーションの場を生み出すことができた。

4 今後の課題

コミュニケーションスキルを確実なものにするには、長期にわたる継続的な計画や、体系的な取り組みを今後進めていく必要がある。

個に応じた指導も取り入れて、学年差や学級差を埋めていく学校全体の取り組みに今後高めていきたい。